SSJDA－093

社会調査・データアーカイブ共同利用・共同研究プロジェクト

質的データの保管・共有に関する
海外データアーカイブの実践：FSDとDANSの事例

横内陳正（東京大学）[1]

谷口沙恵（東京大学）[2]

石田賢示（東京大学）[3]

東京大学社会科学研究所

附属社会調査・データアーカイブ研究センター

2025 年（令和 7 年）3 月

[1] 東京大学社会科学研究所特任准教授, yokouchi@iss.u-tokyo.ac.jp

[2] 東京大学社会科学研究所特任専門職員, sae_taniguchi@iss.u-tokyo.ac.jp

[3] 東京大学社会科学研究所准教授, ishidak@iss.u-tokyo.ac.jp

1 はじめに

オープンサイエンスを巡る世界的潮流のなか，研究データの共有・公開に向けた様々な取り組みが展開されている．これまで社会科学分野の国内データアーカイブでは，主に量的データの保管・共有を念頭に体制の整備や強化が進められてきたが，海外データアーカイブでは，この間に質的データの保管・共有も推進されてきた．

質的データには，テキスト，写真，音声，映像など数値化されていない多様な形態のデータが含まれ，そのため保管・共有が難しいことが指摘されてきた．たとえば，二次利用の不確定性を前提とした同意取得の困難さや，データ収集に関する文脈的知識を文書化することの困難さなどが質的データ特有の課題として挙げられている（Heaton 2004; Hammersley 2010; Hughes and Tarrant 2020）．

こうした理論的観点からの指摘がある一方で，海外データアーカイブの実践に目を向けると，1994 年にイギリスで設立された Qualidata（Qualitative Data Archival Resource Centre）をきっかけとして，1990 年代以降の欧米諸国のデータアーカイブでは，質的データの保管・共有が徐々に実行に移されてきた（Bishop and Kuula-Luumi 2017）．

国内においても，これまで質的データの保管・共有に向けた様々な検討がなされてきたものの（齊藤 2007; 小林 2020; 髙橋 2020），データアーカイブの実践では必ずしも大きな進展が見られなかった．たとえば，SSJ データアーカイブ（Social Science Japan Data Archive: SSJDA）では，1998 年より社会調査の個票データを二次利用のために提供しており，社会科学分野の分野別リポジトリとして量的データの保管・提供のための体制を強化してきた（三輪・佐藤 2018）．しかし，質的データの保管・共有は実現しておらず，データアーカイブの実践に資するような知見の蓄積が期待されている（横内・胡中 2024）．

そこで本稿は，著者らが 2025 年 3 月に FSD（Finnish Social Science Data Archive）および DANS（Data Archiving and Networked Services）で行った現地調査に基づき，国内データアーカイブにおける質的データの保管・共有につながるような実践的知見を提供することを目的とする．具体的には，FSD と DANS における質的データの寄託から公開までのプロセスについて，制度・運用・技術的側面から整理し，比較検討を行った．

2 FSD の事例

2.1 FSD の概要

FSD は 1999 年に設立された社会科学分野の分野別リポジトリであり，現在はタンペレ大学の独立ユニットとして，教育担当官庁（Ministry of Education and Culture）とタンペレ大学の助成を受けて運営されている．FSD は 2017 年から CoreTrustSeal の認証を受けており，フィンランドにおける CESSDA（Consortium of European Social Science Data Archives）のサービスプロバイダでもある．

FSD では独自のオンラインシステム Aila Data Service を用いてデータの保管・共有を行っており，2025 年 3 月時点で約 2050 件のデータセットが利用可能である．メタデータは基本的に全てフィンランド語と英語で記述されており，そのうち一部のデータセットは英語で提供されている．Aila Data Service で検索できるメタデータは，CESSDA Data Catalogue にも掲載されている．FSD

では 2003 年より質的データの収録を開始しており，2025 年 3 月時点で約 370 データセットが提供されている．当初はメタデータのみの公開も行っていたが，共有を前提とした保管が重要であるとの考えに基づき，現在ではメタデータのみの公開は行っていない．なお，FSD において最初に公開された質的データは，新聞社による調査の自由記述欄の回答データであった．

2.2 質的データの寄託

FSD が受け入れているのは，質的データのうちテキストデータのみであり，音声データや映像データは原則として寄託できない．質的データの寄託者は，データの寄託に際してフォームで関連情報を入力することが求められる（図 1）．

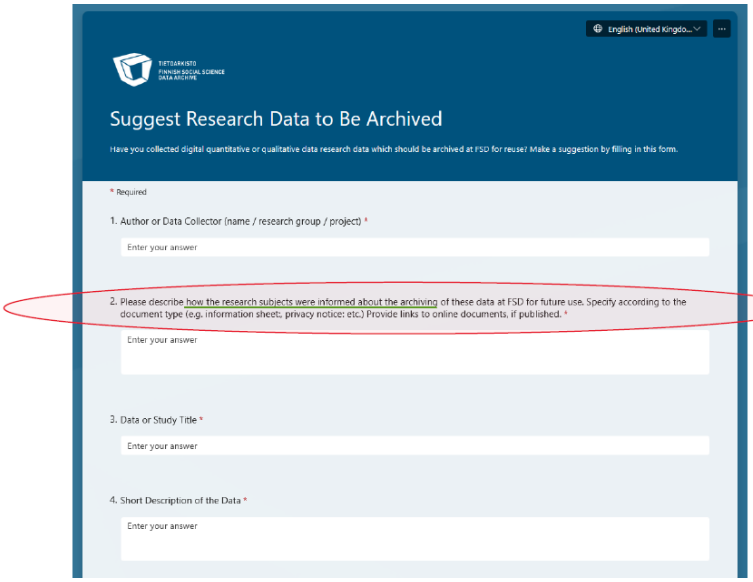


図 1　データ寄託時に使用するフォーム（FSD より提供）

このフォームでは，データ作成者，プロジェクト名，データ概要などに加えて，同意取得の手続きに関して報告することが求められる．後述するように，これらの情報はメタデータ作成にも使用される．このうち，特に同意取得の手続きについては FSD の担当スタッフが確認したうえで，不備があったり問題がありそうな場合には寄託者に確認し，FSD 側で受け入れを断ることもある（例：同意取得の際に用いる説明文書のなかに「データを削除する」という文言がある場合）．なお，同意取得の手続きの妥当性を判断する際の根拠のひとつとなるのが，一般データ保護規則[4]（General Data Protection Regulation: GDPR）である．

FSD では，研究データへのアクセスレベルを 4 段階に設定している（表 1）．寄託者は，上記のフォームを入力する際にデータのアクセスレベルも設定するが，同意取得の方法やデータの内容を踏まえて，FSD からアクセスレベルの変更を要請することもある．特に，寄託者による承認を必要とするレベル D を選択する場合，寄託者にはその理由を説明することが求められる．レベル D が妥当なケースとして想定されるのは，たとえばデータの寄託者が当該データを使用した論文

[4] EU域内の個人データ保護を規定する法として，2018年5月に施行された．

をまだ刊行していないため，他の利用者が同じ目的で二次分析を行うことを避ける必要がある場合などである．

表 1　FSD における研究データのアクセスレベル

レベル	概要
A	誰でも自由に利用可能／CC BY 4.0（Aila Data Service への登録は不要）
B	研究・教育・学習目的でのみ利用可能（Aila Data Service への登録が必要）
C	研究目的でのみ利用可能（Aila Data Service への登録が必要）
D	寄託者による承認が必要（Aila Data Service への登録が必要）

2.3 質的データのキュレーション

質的データのキュレーションのうち，特に重要なのは匿名化である．2003 年に質的データの収録を開始した当初は，FSD が寄託者に代わって匿名化を行っており，それゆえに質的データの公開ペースは年間 5 件ほどであった．現在は，寄託者の責任の下で匿名化を行うことを前提としており，FSD はあくまでそれを確認・支援する役割に徹している．さらに，寄託されたデータにおいて匿名化が適切になされており，かつテキストの量が多い場合には，FSD の担当スタッフはデータの一部のみを確認するなど，負担の軽減とキュレーションの迅速化も試みられている（例：テキストの 10%をランダムに確認する）．逆に，匿名化が十分でない場合には，FSD の担当スタッフが追加修正を施すこともある．その際には，寄託者による匿名化（例：都市名→[local area]）と FSD による匿名化（例：都市名→[[local area]]）は明示的に区別される．FSD による支援としては，寄託者向けの匿名化のためのガイドラインを公開したり，個別のデータに即した助言も行っている．具体的な事例として，たとえば高齢者と対象としたインタビューを行う場合，インタビューの冒頭で自身の家族や健康など，本来の研究目的とは関連しない個人情報が意図せず収集されてしまうことがある．こうした場合，インタビューの冒頭部分をそのまま削除し，削除した旨を逐語録に記載するよう FSD から寄託者に対して助言することがある．一方で，寄託者によって匿名化された部分を元に戻すような助言を行うことはほとんどない．

現在，FSD の担当スタッフがキュレーションを行う際に使用するソフトは主に 2 種類ある．ひとつは Agent Ransack であり，匿名化が必要な特定の単語がファイル内で使用されているかどうかを確認するために使用される．もうひとつは Kvalikirstu[5]であり，複数ファイルに跨ってファイル名やフォーマットを一括変更したり，特定の単語を一括変換するために用いられる．

[5] FSDに所属していた学生が開発したソフトウェアである．

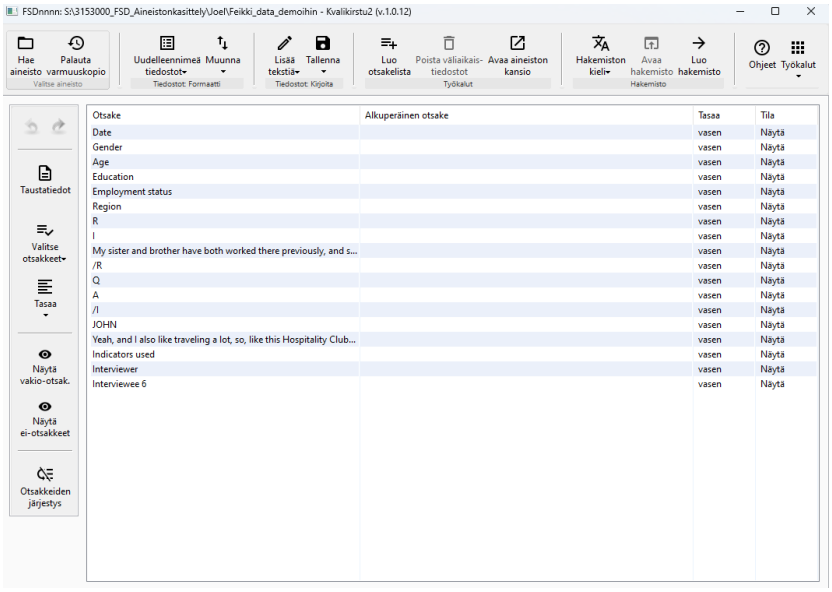


図 2　Kvalikirstu での作業画面（FSD より提供）

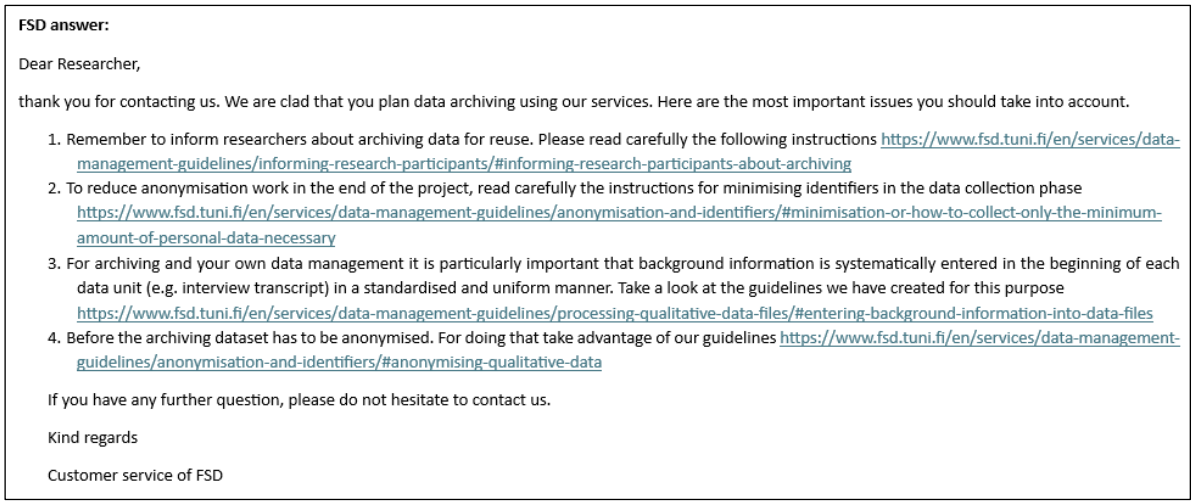
2.4 質的データのメタデータ作成

FSD では，図 1 に示したフォームに入力された情報を基に，担当スタッフがメタデータ作成を行っている．具体的に，寄託者が入力したデータはデータベースで保存されており，それを基に担当スタッフが Oxygen XML editor を使用して XML ファイルを直接編集し，バリデーションチェックも行う運用になっている．そのため，メタデータ作成に係る FSD 側の負担が相対的に大きいのが現状である．こうした状況も踏まえ，今後は寄託者による入力情報を直接 XML ファイルとして出力するような機能の開発も予定されている．

メタデータスキーマに関して，FSD では質的データと量的データに共通して，DDI（Data Documentation Initiative）のバージョン DDI-C 2.5（DDI-Codebook 2.5）が用いられている．また，質的データのメタデータには，たとえばインタビュークエスチョンの情報も記載されており，いわゆる Question bank として検索することも可能である．

2.5 その他の取り組み

質的データの寄託から公開までのプロセスを促進するようなその他の取り組みとして，第一に，ガイドラインの整備が挙げられる．FSD では，質的データの収集における同意取得の方法，匿名化の方法，研究データ管理の方法などについて，複数のガイドラインを作成・公開することで，データ寄託時に生じやすい困難を予め解消し，寄託後の手続きが円滑に進むよう試みられている．また，こうしたガイドラインの整備は，中長期的には FSD の担当スタッフの負担軽減にもつながっている．たとえば，質的データの寄託を見据えてこれからデータ収集を行う研究者からの問い合わせに対しては，関連するガイドラインのリストを送付するような一律的な対応が可能になっている（図 3）．



FSD answer:

Dear Researcher,

thank you for contacting us. We are clad that you plan data archiving using our services. Here are the most important issues you should take into account.

1. Remember to inform researchers about archiving data for reuse. Please read carefully the following instructions https://www.fsd.tuni.fi/en/services/data-management-guidelines/informing-research-participants/#informing-research-participants-about-archiving
2. To reduce anonymisation work in the end of the project, read carefully the instructions for minimising identifiers in the data collection phase https://www.fsd.tuni.fi/en/services/data-management-guidelines/anonymisation-and-identifiers/#minimisation-or-how-to-collect-only-the-minimum-amount-of-personal-data-necessary
3. For archiving and your own data management it is particularly important that background information is systematically entered in the beginning of each data unit (e.g. interview transcript) in a standardised and uniform manner. Take a look at the guidelines we have created for this purpose https://www.fsd.tuni.fi/en/services/data-management-guidelines/processing-qualitative-data-files/#entering-background-information-into-data-files
4. Before the archiving dataset has to be anonymised. For doing that take advantage of our guidelines https://www.fsd.tuni.fi/en/services/data-management-guidelines/anonymisation-and-identifiers/#anonymising-qualitative-data

If you have any further question, please do not hesitate to contact us.

Kind regards

Customer service of FSD

図 3　問い合わせに対する返信のテンプレート（FSD より提供）

第二に，FSD ではテキストデータ収集ツールである Penna[6]を研究用に提供することで，寄託の促進を試みている．Penna は調査者が質問を設定し，それに対して研究参加者がなるべく個人情報を含めず自由記述で回答するようなツールである．現在，FSD に寄託される質的データの約 3 割が Penna によって収集されている．Penna で収集されたテキストデータでは，匿名化の作業が最小限で済むため，寄託者側と FSD 側の双方の負担軽減にもつながっている．Penna はフィンランド語のみに対応しているが，英語圏で調査を行いたいという利用者の要望を受けて，今後は英語によるサポート機能の充実などが図られる予定である．

3 DANS の事例

3.1 DANS の概要

DANS は 2005 年に設立され，オランダ王立芸術科学アカデミー（Royal Netherlands Academy of Arts and Sciences: KNAW）とオランダ科学研究機構（Dutch Research Council: NWO）の助成を受けて運営されている国立のデータアーカイブである [7]. DANS は 2018 年から CoreTrustSeal の認証を受けており [8]，オランダにおける CESSDA のサービスプロバイダでもある．

従来，DANS では EASY という独自のオンラインシステムに基づくひとつのリポジトリを運営していたが，2023 年から 2024 年にかけて Dataverse[9]に基づく新システムへの移行を完了し，現在は 4 つの分野別リポジトリである Data Station Social Sciences and Humanities（SSH），Data Station Archaeology，Data Stations Life Sciences，Data Stations Physical and Technical Sciences を運営してい

---

[6] https://services.fsd.tuni.fi/penna/（2025 年 3 月 31 日アクセス）

[7] 現組織の前身は，1989年に設立されたNetherlands Historical Data Archive（NHDA）と，1964年に設立されたSteinmetz Archiveである．

[8] 後述する分野別リポジトリへの移行後は個別に再取得が試みられた．

[9] Dataverse（Harvard Dataverse）は，ハーバード大学のInstitute for Quantitative Social Science（IQSS）で開発されたオープンソースのレポジトリソフトウェアである．

る[10]．このうち，社会科学分野の研究データを取り扱う Data Station SSH の規模が最も大きく，2025 年 3 月時点で約 7,890 データセットが提供されている．Data Station SSH で検索できるメタデータは，CESSDA Data Catalogue や ODISSEI portal[11]にも掲載されている．

3.2 質的データの寄託

寄託者は Data Station にログインしたうえで，データセットのアップロードおよびメタデータ項目の入力を行う．また，寄託者はデータセットに含まれる各データファイルに関して，エンバーゴ期間やアクセスレベルを設定できる（表 2）．オープンアクセスの場合にはライセンスを選択でき，制限付きアクセスの場合は DANS License[12]の下で，寄託者による承認を前提にデータを公開するか, もしくはデータを公開しないことを選択できる. ただし, データセットの完全非公開, すなわちメタデータのみの公開は許可されていない. なお, 個人情報の取扱いは GDPR に準拠し，寄託者が必要に応じて匿名化を行う．寄託後は，DANS の担当スタッフが，研究データに相当するか，過去に寄託されたデータと重複していないか，アクセスレベルやライセンスの設定が妥当であるかなどを確認し，問題なければ DOI が付与され，キュレーションに移行する．

表 2　DANS における研究データのアクセスレベル

レベル	概要	ライセンス
オープンアクセス	ライセンスの条件下で自由に利用可能	CC0 1.0, CC-BY 4.0, など
制限付きアクセス	利用時には寄託者による承認が必要／データを提供しない[13]	DANS License

3.3 質的データのキュレーション

DANS では，5 名程度のスタッフによって構成される Data Processing Team が，Data Station SSH に寄託される質的データを含め，4 つの分野別リポジトリに寄託されるデータのキュレーションを全て担っている．キュレーションとメタデータ作成に関しては，スタッフ用マニュアルも公開されている[14]．キュレーションは大きく分けて 2 つのレベルで行われる．Basic curation では，後述するメタデータ作成に加え, 研究やデータに関する必要情報（例 : 報告書, ファイル間の関連）がデータセットに含まれているかを確認する．これらの点において問題がなければキュレーションは完了し，データセットが公開される．Enhanced curation では，推奨されるファイルフォーマット以外のものが含まれていないか，ファイル名やファイルの中身に意図せず個人情報が含まれ

[10] 4つの分野別リポジトリに加えて，機関向けのData Station NLがある．

[11] オランダにある社会科学分野のデータアーカイブを跨って検索できるシステムである．

[12] https://dans.knaw.nl/wp-content/uploads/2022/01/DANS_Licence_EN.pdf（2025年3月31日アクセス）

[13] 同一データセット内で制限付きアクセスとするファイル間では，「利用時には寄託者による承認が必要」もしくは「データを提供しない」のいずれかに統一する必要がある．

[14] https://dans.knaw.nl/wp-content/uploads/2024/06/R.4.6.-Datastations-Data-Processing-Team-Handleiding_for-Publication-1.pdf（2025年3月31日アクセス）

ていないか，関連しないファイルがデータセットに含まれていないかを確認する．仮にこれらの点で修正が必要な場合には，既に公開されているデータの別バージョンとして公開される．

DANS では，質的データを含め，原則としてファイルの内容には手を加えない方針になっている．つまり，必要な匿名化は寄託者の責任の下で行われることを前提としており，DANS が匿名化の作業を積極的に支援することは想定されていない．仮に匿名化が適切になされていなかったり，もしくは匿名化が困難だと思われる場合には，寄託者に対して制限付きアクセスへの変更を勧めたり，受け入れを断ることもある．こうした方針はキュレーションの簡素化，担当スタッフの負担軽減，データ公開のペース向上にも寄与している．

3.4 質的データのメタデータ作成

DANS では，メタデータ作成の大部分を寄託者が担っている．必要情報の入力は寄託者によってデータの寄託時に行われ, DANS の担当スタッフが行うのは主にメタデータのチェックである．仮にメタデータの記述内容に不備があることが判明した場合には，メタデータが寄託者に差し戻され，追加修正が要求される．

DANS では，Data Station SSH を含めた全ての分野別リポジトリにおいて，CESSDA Metadata Model（CMM）や関連する統制語彙に基づいてメタデータが記述されている．具体的に，調査プロジェクトレベルのメタデータは，General metadata（Citation metadata，Rights metadata，Relation metadata）に加えて，Data Station SSH においてのみ使用される Specific metadata によって記述される（表 3）．また，ファイルレベルのメタデータとして File metadata も存在する（表 3）．これらは，DANS が独自に設定したメタデータブロックと呼ばれ，従来システムである EASY で保有していたメタデータの一部をマッピングすることも可能にしている．

表 3　メタデータの主な構成

メタデータブロック	メタデータ項目
Citation metadata	タイトル，作成者，連絡先，など
Rights metadata	権利者，個人情報の有無，言語
Relation metadata	分野，コレクション，関連リソース，など
Social Science and Humanities	キーワード，CESSDA トピック分類，調査対象，など
Temporal and spatial coverage	時期，対象地域
File metadata	ファイル名，パス，説明，など

さらに，質的データのうち，インタビューを書き起こしたテキストデータについては，DANS とアムステルダム大学が共同開発したテンプレート（Metadata Transcription Template）が公開されており，寄託者に対して追加的なメタデータを作成することも推奨されている（図 4）．

Interview Metadata and Transcript[1]

[Remove this text after following-up: replace header text for interview title: Interview [first name] [last name], Location, Place + Date. Official title is filled out under 'Title'. Filling out 'on' is important if more interviews with the same person are (to be) conduced, or to indicate the subject / project as a common denominator to mark the interviews belonging together].

Title	Interview <[first name] [last name]> on <[subject]>
Subtitle	<name project or 'on' subject> in case of more relating interviews
Interviewee	<Name>, (date of birth), profession or function
Interviewer(s)	Name of the interviewer(s), profession or function of the interviewer(s)
Others present	Name(s), function(s) of others present
Place	Place where the interview has been conducted
Date; time/duration	Date; start and end time of the interview and/or duration
Temporal coverage	Named period, date, or date range [start date-end date]
Spatial coverage	Named place or a location; specified by its geographic coordinates
Keywords	List of relevant key words (see: Art & Architecture Thesaurus®)
Summary (Description)	Briefly state something about the interview in a few sentences. What is the role of the interviewee within the project? What is the reason for the interview? Furthermore, point by point what is discussed in the interview, preferably with time codes (large chunks). Briefly describe special events. This increases the accessibility of the interview.
Audience	Humanities; Arts and Culture; History of Arts and Architecture (for example)
Recording by	Name and type of recording (audio/video), name device
Transcript by	Name, function / organisation (date of completion)
Publisher	E.g., Institution
Owner (Rightsholder)	Name of the organisation or private party depositing the document. Can be either different or the same as Publisher field.
Related to	Other interview / publication / project, etc. Use separate bloc per item / Link
Access rights	Closed / restricted / open – FAIR: Findable, Accessible, Interoperable, Reusable
Language	
Date available	Important in case of embargo. If not, it can be any date asap
Depositor	

Setting

[describe setting and atmosphere of the interview to illustrate what cannot be sensed from only reading the text in the transcript].

Transcript

[paste transcript from xxx.word.txt file if processed with a ASRCorrector or WhisperCorrector from www.speechandtech.eu, and while text selected, drag left margin marker 4 cms to the right to distinguish the spoken text from the speakers]

[1] This template has been compiled in collaboration between the *Interviews in Conservation Initiative*, www.uva.nl/ici and DANS-KNAW, https://dans.knaw.nl/en/, the Dutch National Centre of Expertise for research Data Archiving and Networked Services of the Royal Netherlands Academy of Arts and Sciences (KNAW) and the Dutch Scientific Research Council (NWO), 27 March 2023.

図 4　テキストデータのメタデータ例 [15]

3.5 その他の取り組み

質的データの寄託から公開までのプロセスを促進するその他の取り組みとして，第一に，DANS では FSD と同じく，ガイドラインの整備による研究者や寄託者への間接的な支援を行っている．たとえば，DANS へのデータ寄託のためのガイドラインに加えて（Braukmann et al. 2024），広く研究データ管理の視点から質的データの保管・共有についてまとめたガイドブックも公開されている（Verburg et al. 2023）．

第二に，DANS では研究者や寄託者への直接的な支援も行われている．具体的に，Data Station SSH では，研究データの保管・共有に関する質問に対して，担当スタッフがオンラインで対応する時間帯である“Open hour SSH: live Q&A”を毎週月曜日に設けている．

4 FSD と DANS の比較と考察

質的データの寄託から公開までのプロセスにおいて，FSD と DANS では，制度・運用・技術的側面での違いが見られる．第一に，両機関ではデータの寄託や公開に関する基本方針が異なっている．まず，データコレクションポリシーに関して，FSD では受託対象な質的データをテキスト

[15] https://dans.knaw.nl/en/depositing-data-manual/before-depositing_ds/（2025年3月31日アクセス）

データのみに限定しているのに対して，DANS では音声データや映像データも受け付けている．これに関連して，質的データのキュレーションとメタデータ作成に目を向けると，FSD ではテキストデータに特化したキュレーションやメタデータ作成の運用フローができており，作業の厳密性や精確性を重視していることが伺える．これに対して，DANS では Data Station SSH を含む複数の分野別リポジトリ間で共通するキュレーションやメタデータ作成が行われており，作業の効率性と普遍性をより重視している様子が伺える．こうした違いは，両機関における人員数，組織体制，予算などハード面での違いに加え，データアーカイブとしてのミッション，価値観，歴史的経緯などソフト面の違いを反映していると考えられる．したがって，既存のデータアーカイブが新たに質的データの保管・共有を行う場合には，自機関のハード面やソフト面での特徴を踏まえつつ，最適な基本方針を選択する必要があると示唆される．

第二に，質的データのメタデータに関して，FSD は DDI-C 2.5 に基づいて記述され，DANS では CMM に基づいて記述されている．両機関では，依拠するメタデータスキーマこそ異なるが，それぞれの機関内において質的データと量的データの間でメタデータ項目に顕著な違いはない．これは社会科学分野における標準的なメタデータスキーマを使用しているデータアーカイブであれば，量的データから質的データへと展開する際，メタデータスキーマに大きな変更を加えることなく十分にメタデータを記述できる可能性が高いことを示唆するものである．

第三に，システムの運用に関して，FSD では独自システム Aila Data Service を使用しているのに対し，DANS では独自システム EASY から Dataverse への移行が完了している．FSD のように独自システムに基づく場合には，質的データに対応した柔軟や運用や迅速な改修が可能である一方で, 外部リソースの活用が困難であるため, 維持コストが高くなる傾向がある. これに対して, DANS のようにオープンソースのレポジトリソフトウェアに基づく場合，移行コストこそかかるものの，コミュニティからのサポートなど外部リソースの活用による長期的な維持コストの低減が期待される．ただし，迅速なバグ修正や英語以外への対応などにおいて限界があることも指摘される．したがって，データアーカイブが質的データの保管・共有を開始する際には，長期的な観点から，システムの運用についても再検討する必要があることが示唆される．

5 おわりに

本稿は，FSD と DANS での現地調査に基づき，両機関における質的データの寄託から公開までのプロセスを整理し，比較検討したものである．FSD と DANS は，いずれも CoreTrustSeal の認定を受け，質的データと量的データの両方を取り扱っている点において共通しているが，一方で制度・運用・技術的側面においてはいくつかの違いが見られた．量的データを取り扱ってきた国内データアーカイブが，今後，質的データの保管・共有へと展開する際には，FSD や DANS も含め，ロールモデルとなるような海外データアーカイブを参照しつつ，自機関にとって最適な実践方法を見つけることが有益であると考えられる．また，FSD と DANS とは異なり，たとえばシラキュース大学の Qualitative Data Repository は質的データのみを取り扱うデータアーカイブである．今後は，こうした他の海外データアーカイブの知見を整理し，国内データアーカイブの実践に活かしていくことが期待される．

謝辞

本稿の作成に当たっては，JSPS 人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業 JPJS00320231001 の支援を受けた. また, 現地調査にご協力いただいた FSD の Tuomas Alaterä 氏, DANS の Ricarda Braukmann 氏をはじめ，両機関の皆さまに心より感謝いたします.

参考文献

Bishop, Libby and Arja Kuula-Luumi, 2017, “Revisiting Qualitative Data Reuse: A Decade On”, *Sage Open*, 7(1): 1–15.

Braukmann, Robert, Marcel Verburg and Wally Mahabier, 2024, “Guidebook - Depositing Restricted Access In The DANS Data Stations (1.0)”, *Zenodo*, https://doi.org/10.5281/zenodo.10887484.

Hammersley, Martyn, 2010, “Can We Re-Use Qualitative Data via Secondary Analysis? Notes on Some Terminological and Substantive Issues”, *Sociological Research Online*, 15(1): 47–53.

Heaton, Janet, 2004, “Reworking Qualitative Data”, SAGE Publications Ltd.

Hughes, Kahryn and Anna Tarrant, 2020, *Qualitative Secondary Analysis*, London: SAGE Publications Ltd.

Verburg, Marcel, Robert Braukmann and Wally Mahabier, 2023, “Making Qualitative Data Reusable - A Short Guidebook For Researchers And Data Stewards Working With Qualitative Data (Version 2)”, *Zenodo,* https://doi.org/10.5281/zenodo.8160880.

小林多寿子，2020,「社会学における質的データとアーカイヴ化の問題：オーラリティと声の公開の可能性」，岩本通弥編，2020,『方法としての〈語り〉――民俗学をこえて』ミネルヴァ書房，277–295.

齊藤康則，2007,「社会学的質的データのデジタル・アーカイブ方法論・序説：北海道大学・布施鉄治グループによる炭都・夕張調査に即して」『社会情報』17(1): 17–33.

髙橋かおり，2020,「質的データアーカイブ構想の現状と課題：数値化されていない調査データの保存と活用に向けて」『社会と統計』6: 65–74.

三輪哲・佐藤香，2018,「オープンサイエンス時代における社会科学データアーカイブの意義 : SSJ データアーカイブのこれまでとこれから」『情報の科学と技術』68(10): 489–494.

横内陳正・胡中孟徳，2024,「SSJ データアーカイブにおける質的データの保管・共有に向けた検討：メタデータ作成に着目して」『情報知識学会誌』34(3): 298–303.